

高等学校における複言語教育の現状・ 展望と大学教育との連携について

一般財団法人 日本私学教育研究所
一般社団法人 日本外国語教育推進機構

山崎吉朗

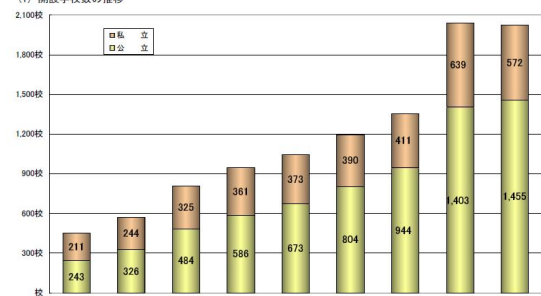
今日の内容

- 複言語教育の現状
 - 履修者状況(文科省データ)
 - 公立と私学
- 学習指導要領と外国語
 - 現在の学習指導要領
 - 改訂の歴史
- 進学のための複言語教育
 - 大学入試センター試験
 - 一般受験 AO入試
- 教員免許状更新講習と複言語・多言語
- フランス語教育実情調査
- 日本外国語教育推進機構

1 複言語教育の現状

8 英語以外の外国語の開設について

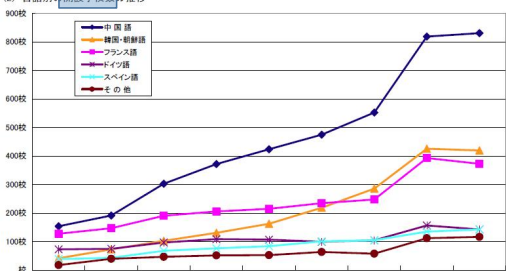
(1) 開設学校数の推移



	平成5年	平成7年	平成9年	平成11年	平成13年	平成15年	平成17年	平成19年	平成21年
公立	243	326	484	586	673	804	944	1,403	1,455
私立	211	244	325	361	373	390	411	639	572
計	454	570	809	947	1,046	1,194	1,355	2,042	2,027

平成20年度高等学校等における国際交流等の状況について(文科省初等中等教育局国際教育課)

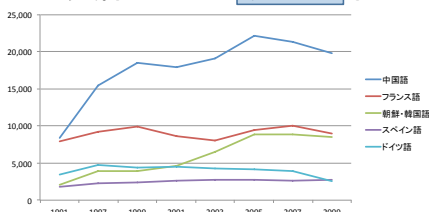
(2) 言語別の開設学校数の推移



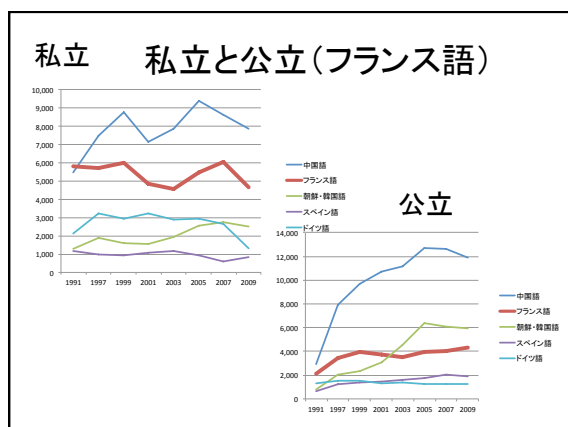
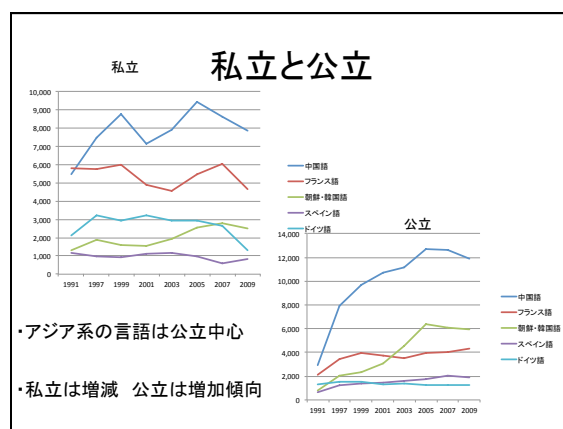
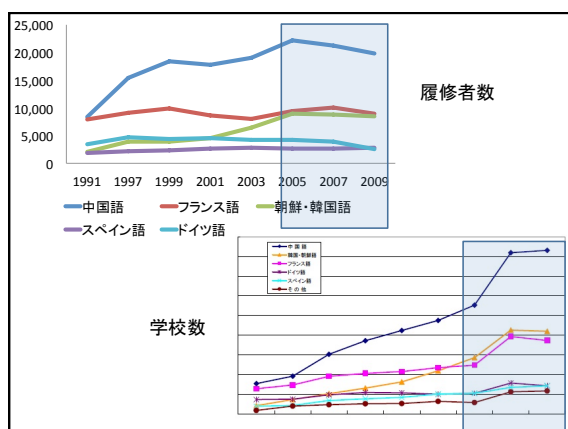
	平成5年	平成7年	平成9年	平成11年	平成13年	平成15年	平成17年	平成19年	平成21年
中国語	154	192	303	372	424	475	553	819	831
韓国・朝鮮語	42	79	103	131	163	219	286	426	420
フランス語	128	147	191	206	215	235	246	393	373
ドイツ語	73	75	97	109	107	100	105	157	143
スペイン語	39	43	68	77	84	101	105	135	143
その他	18	40	47	52	53	64	58	112	117
計	454	570	809	947	1,046	1,194	1,355	2,042	2,027

平成20年度高等学校等における国際交流等の状況について(文科省初等中等教育局国際教育課)

英語以外の履修者推移



	1991	1997	1999	2001	2003	2005	2007	2009
中国語	8,371	15,390	18,441	17,849	19,045	22,161	21,264	16,751
フランス語	7,918	9,187	9,923	8,621	8,081	9,427	10,059	8,654
韓国・韓国語	2,070	3,929	3,972	4,587	6,476	8,891	8,865	8,446
スペイン語	1,795	2,236	2,334	2,584	2,784	2,688	2,632	2,783
ドイツ語	3,468	4,767	4,446	4,548	4,275	4,198	3,898	2,560



2 学習指導要領と外国語

学習指導要領における教科「外国語」の科目の変遷(1958-2006)

	1958	1969	1977	1989	1998	2006
中学校	英語					
	ドイツ語					
	フランス語					
	その他の外国語					
高等学校	英語A			英語Ⅰ		コミュニケーション英語基礎
	英語B			英語Ⅱ		コミュニケーション英語Ⅰ
	聴覚英語	英語ⅢA		リーディング		コミュニケーション英語Ⅱ
	英語ⅢB			ライティング		コミュニケーション英語Ⅲ
	英語ⅢC	オーラルコミュニケーションⅠA		オーラルコミュニケーションⅠ		英語ⅢⅠ
		オーラルコミュニケーションⅠB		オーラルコミュニケーションⅡ		英語ⅢⅡ
		オーラルコミュニケーションⅠC				英語ⅢⅢ
	ドイツ語					
	フランス語					
	外国語に関するその他の科目					
英語以外の外国語に関する科目						
その他の外国語に関する科目						

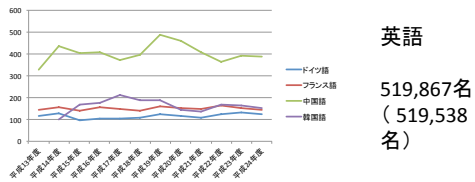
12. 3. 30. Remcnetres pedagogiques 11

日本語政策学会

- 学校別の教育課程の具体案(例) 基調講演 (森住衛会長 桜美林大学)
 - a. 幼稚園/小学校の外国語教育の位置づけを確立する。
 - b. 中高大の教育課程において英語以外の外国語の1つを選択必修とする。
- シンポジウムでの提案
 - 英語以外の外国語の履修を選択必修に法制化したい、
 - 本シンポジウムの結論は、文科省等への提言の作成準備の第一歩とする、

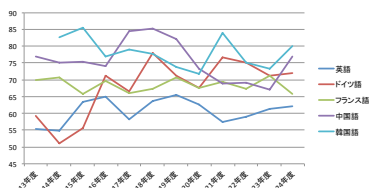
3 進学のための複言語教育

大学入試センター受験者数推移



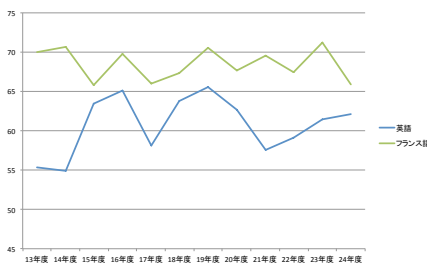
	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
ドイツ語	116	127	96	105	102	106	125	116	106	124	132	125
フランス語	145	156	138	154	149	141	158	152	143	165	151	142
中国語	327	438	405	408	372	397	485	460	409	364	392	386
韓国語	96	169	174	213	189	186	142	136	167	163	151	151

大学入試センター試験平均点



	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
英語	55.35	54.84	63.41	65.05	58.09	63.76	65.54	62.63	57.51	59.07	61.39	62.07
ドイツ語	59.33	51.07	55.49	71.28	66.55	77.92	71.3	67.59	76.77	75.06	71.08	72.05
フランス語	69.99	70.63	65.78	69.77	66	67.3	70.56	67.65	69.48	67.4	71.19	65.84
中国語	76.91	75.15	75.35	73.98	84.56	85.28	82.09	73.18	68.78	69.01	67.07	77.04
韓国語		82.7	85.48	76.82	79.06	77.64	73.77	71.76	83.88	74.98		73.18

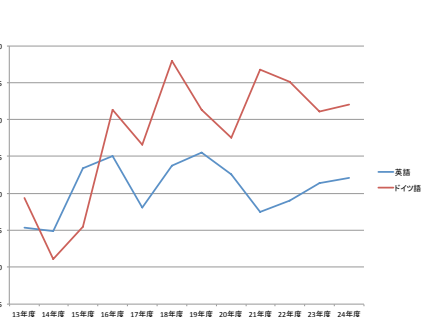
フランス語 英語



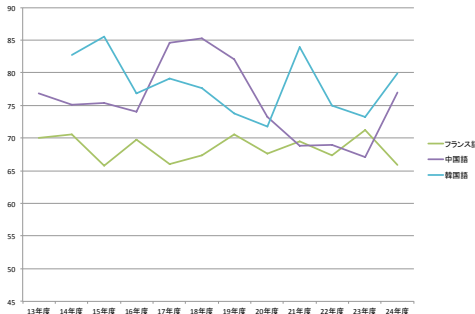
第一外国語実施校

暁星、白百合、カリタス、雙葉、ドミニコ、伊奈総合(埼玉県)、不來方(岩手県立)

ドイツ語, 英語



中国語, 韓国語 ↔ フランス語



4 フランス語教育実情調査

フランス語教育実情調査

- フランス語教育実情調査
 - 日本フランス語フランス文学会, 日本フランス語教育学会合同
 - 2010年実施
- 他の言語
 - 近々に実施予定
- 科研費の調査
 - 京都大学 西山氏, 大木氏
 - さまざまな言語
 - 動機付け 選択の継続の調査 実情調査ではない
- 横の連絡は乏しい
- 英語も含めた外国語教育という視点が重要

5種類のアンケート

	アンケートの対象	回収数	アンケート項目数
1	大学等機関	388	18
2	高等学校	89	16
3	教員	189	20
4	大学生	1,331	33
5	高校生	831	24

1から3の機関及び教員は主に現状調査。
4, 5の大学生、高校生は現状調査と共に意識調査

高等学校

文科省はフランス語実施校名を非公開
→ フランス大使館経由で文科省から入手

文科省データでは 373校で実施しているが、そのうち241校に送付

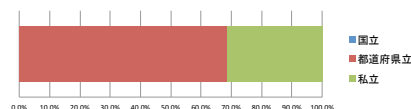
送付数	回答数	有効回答	有効回答率
241	94	89	36.9%

アンケート結果 高等学校

アンケートの対象	回収数
大学等機関	388
高等学校	89
教員	189
大学生	1,331
高校生	831

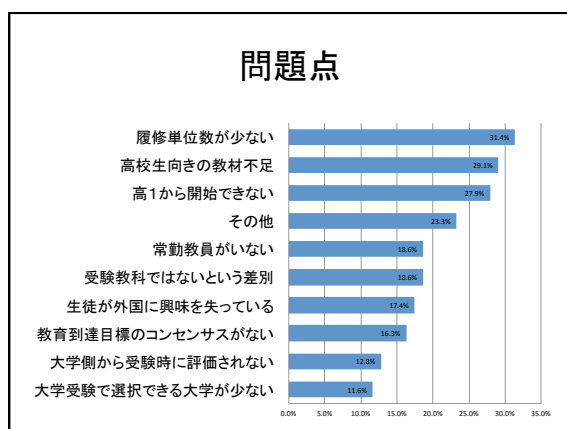
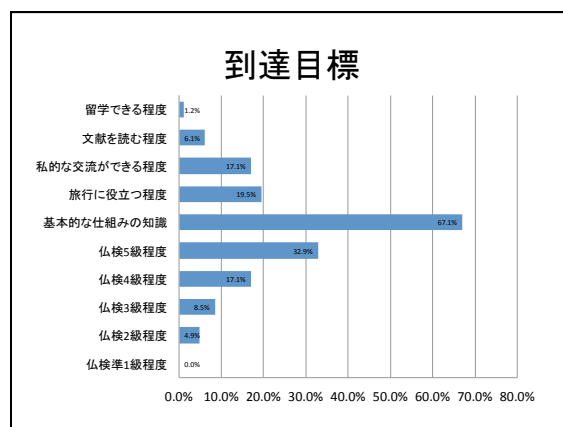
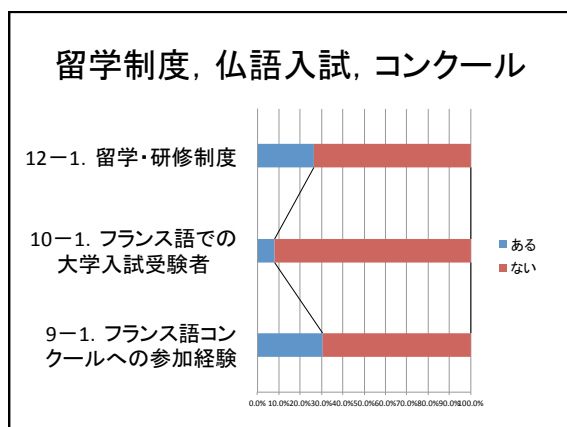
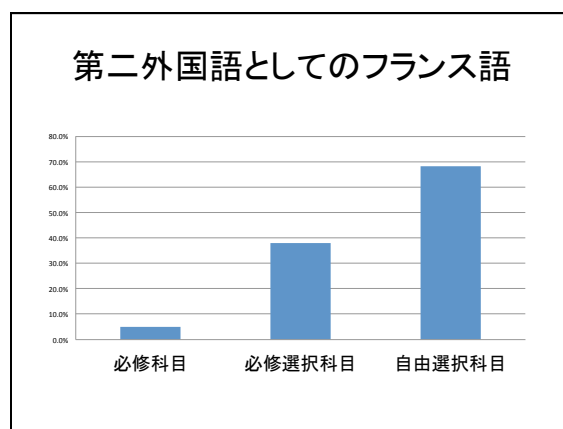
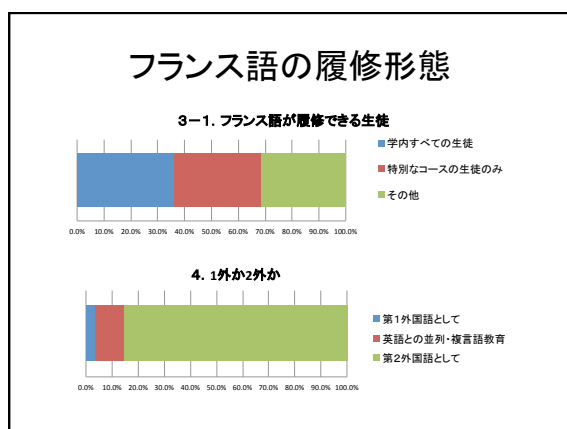
2 高等学校対象アンケート

1. 設立形態



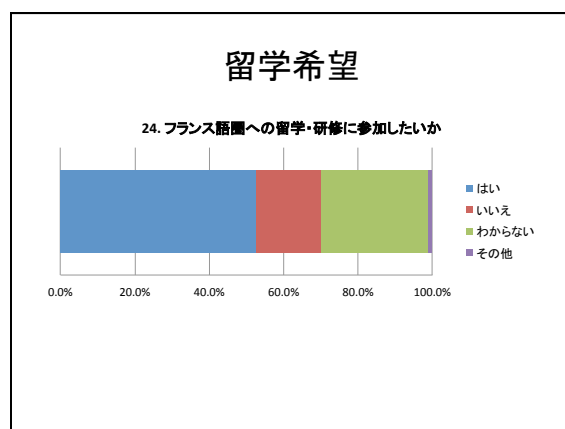
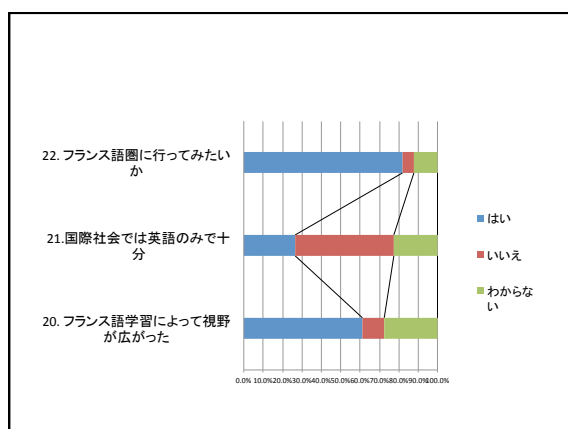
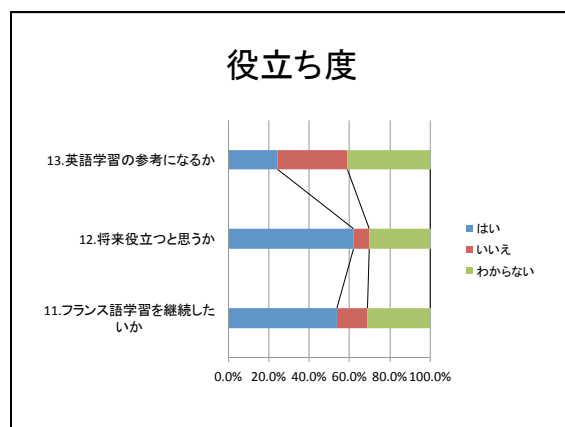
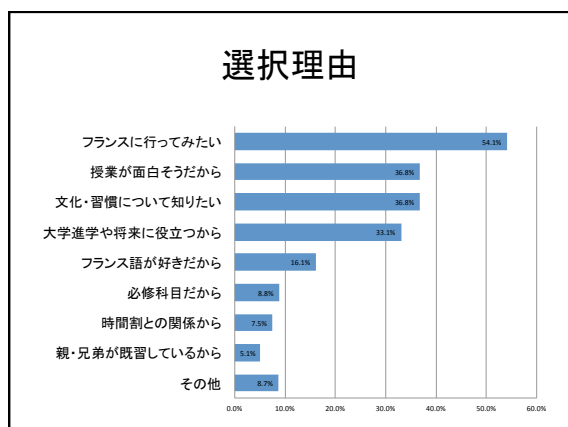
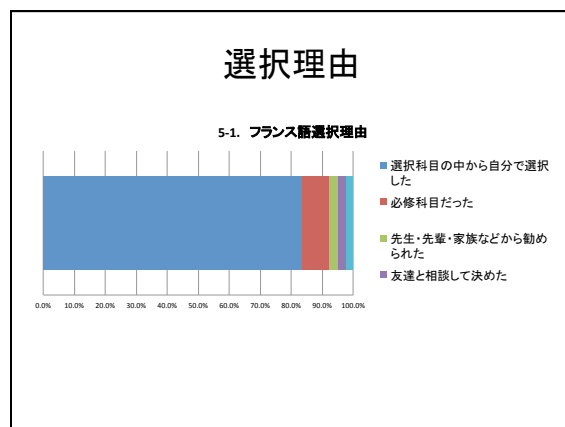
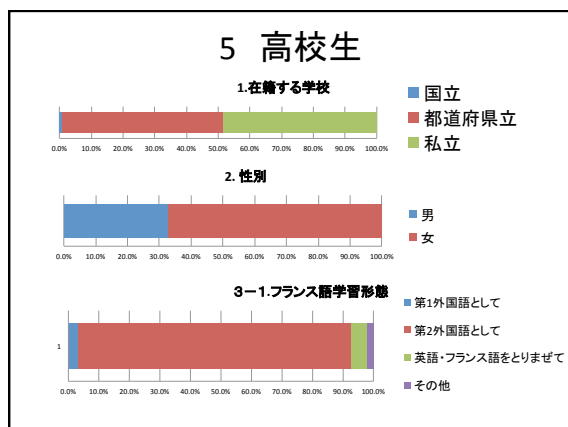
2-1. 高等学校の分類





アンケート結果 高校生

アンケートの対象	回収数
大学等機関	388
高等学校	89
教員	189
大学生	1,331
高校生	831



クロス集計分析

- クロス集計と相関に関する分析
- 3点

仏語圏文化への関心と授業形態希望

	非常にあ る	かなりある	少しある	ほとんどな い	全くない
文法・訳読中心の授業	29.2	28.8	36.5	4.4	1.1
会話中心の授業	28.3	30.2	36.8	3.1	1.6
ネイティブ・スピーカーによる 授業	40.3	31.6	24.1	2.2	1.9
読み書き話し聞く総合的な授 業	28.6	29.5	37.3	2.5	2.1
聞き取り重視の授業	32.3	25.3	37.4	2.0	3.0
フランス語だけで進める授業	43.8	28.1	19.1	3.4	5.6
CALL教室で行う授業	30.0	15.0	35.0	0.0	20.0
実物やなまの教材を使う授 業	44.4	15.3	34.7	1.4	4.2
ビデオ、CD、OHP等の機器 活用	27.2	27.7	39.3	2.9	2.9
コンピュータを用いる授 業	36.0	8.0	44.0	0.0	12.0
仏語圏文化や社会を考える授 業	44.0	25.3	28.0	1.3	1.3

仏語圏文化への関心と授業形態希望

- フランス語の文化に非常に興味のある人は、ネイティブスピーカーによる授業、フランス語だけで進める授業、実物やなまの教材を使う授業を好む傾向がみられる。一方、フランス語の文化に興味がない人は、CALL授業やコンピュータを用いる授業を好んでいる。

フランス語学習への興味と 仏語圏文化への関心の相関

11. あなたはフランス語の学習にどの程度興味を感じますか
21. あなたはフランスやフランス語圏の文化に関心がありますか

	非常にある	かなりある	少しある	ほとんどない	全くない
とても感じる	171	58	28	1	5
わりと感じる	138	191	143	6	0
いっくら感じる	30	103	270	17	0
ほとんど感じない	6	26	59	26	8
まったく感じない	5	5	12	6	7

相関係数 (new.sta)
有意確率(強調表示) $p < .05000$
N=1327 (欠測値は、ケースワイズ 削除)

	フランス語学習への興味	文化への興味
フランス語学習への興味	1	0.51
文化への興味	0.51	1

フランス語学習への興味と 仏語圏文化への関心の相関

- フランス語学習への興味と、フランスやフランス語圏の文化関心は中程度の相関がみられる。($r = .51, p < .05$)

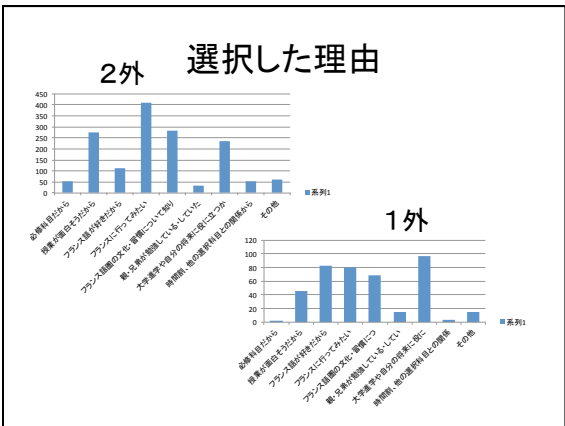
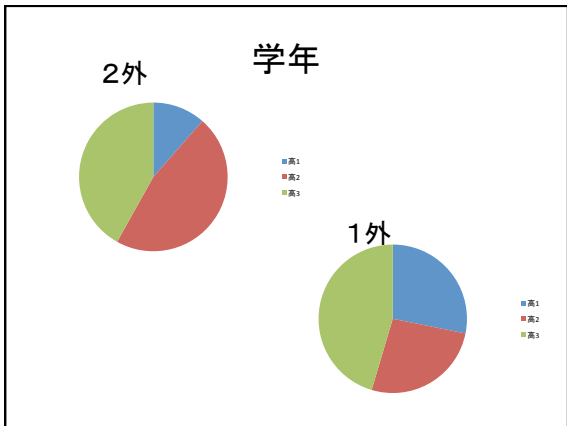
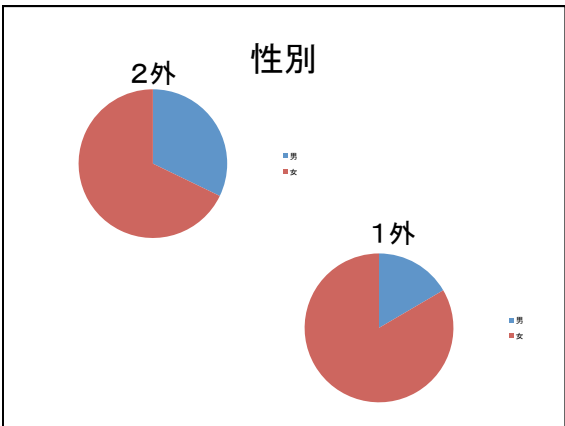
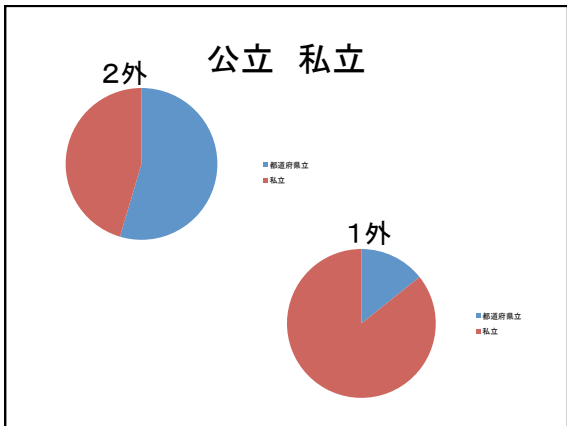
仏語学習が将来役立つかどうかと 仏語選択理由

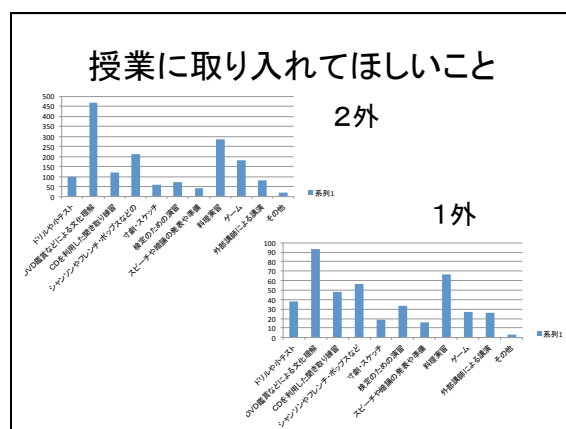
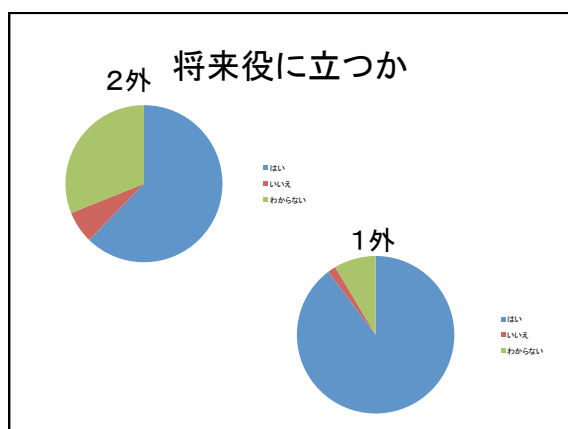
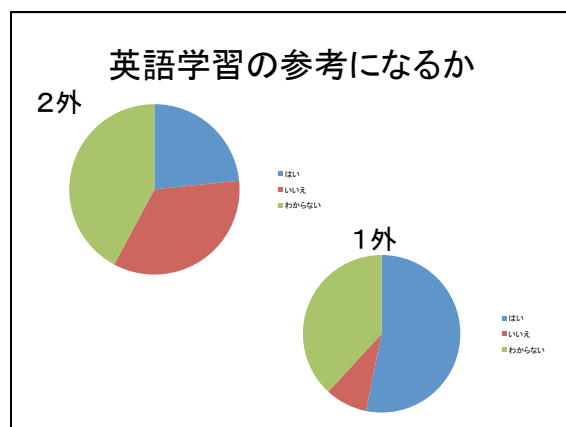
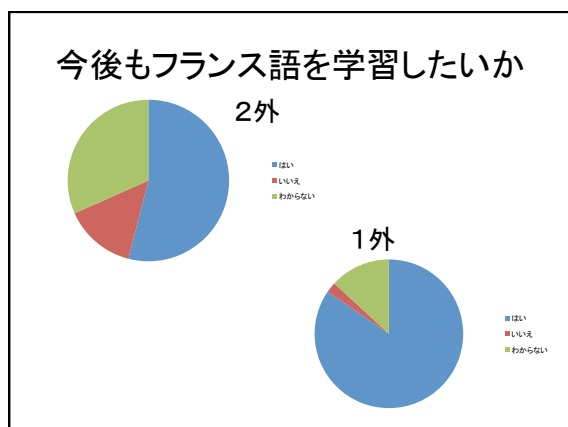
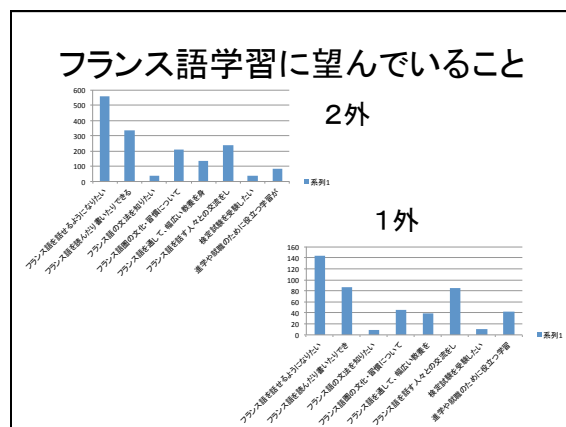
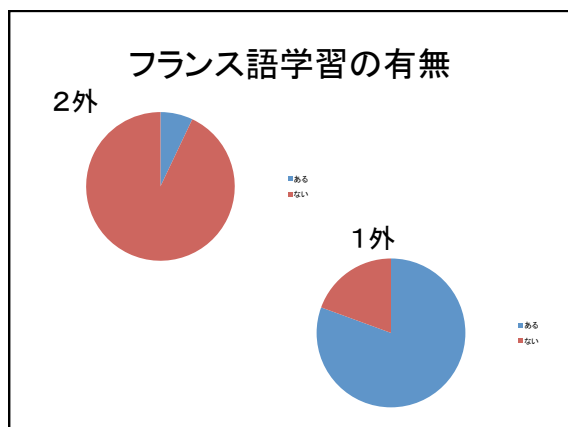
	非常にある	かなりある	少しある	ほとんどない	全くない
文法・訳読中心の授業	29.2	28.8	36.5	4.4	1.1
会話中心の授業	28.3	30.2	36.8	3.1	1.6
ネイティブ・スピーカーによる授業	40.3	31.6	24.1	2.2	1.9
読み書き話し聞く総合的な授業	28.6	29.5	37.3	2.5	2.1
聞き取り重視の授業	32.3	25.3	37.4	2.0	3.0
フランス語だけで進める授業	43.8	28.1	19.1	3.4	5.6
CALL教室で行う授業	30.0	15.0	35.0	0.0	20.0
実物やなまの教材を使う授業	44.4	15.3	34.7	1.4	4.2
ビデオ、CD、OHP等の機器活用	27.2	27.7	39.3	2.9	2.9
コンピュータを用いる授 業	36.0	8.0	44.0	0.0	12.0
仏語圏文化や社会を考える授 業	44.0	25.3	28.0	1.3	1.3

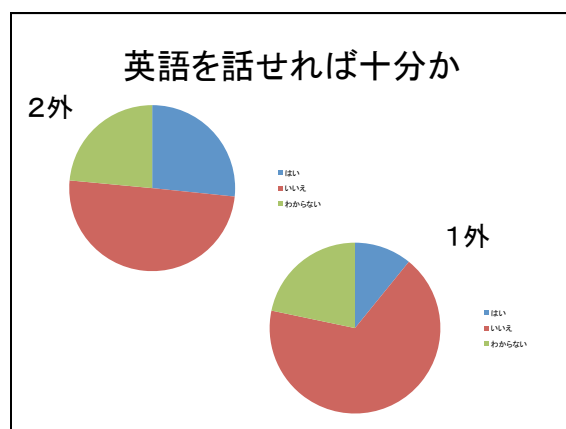
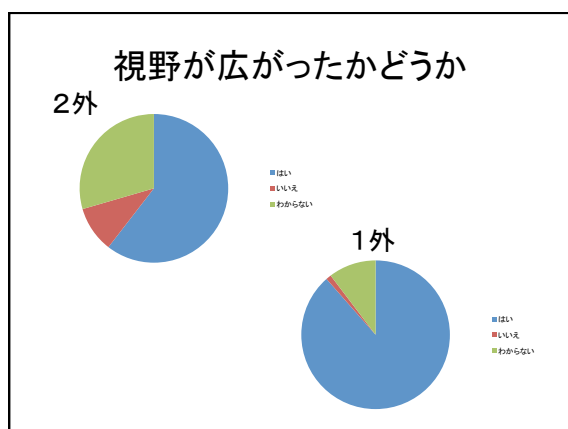
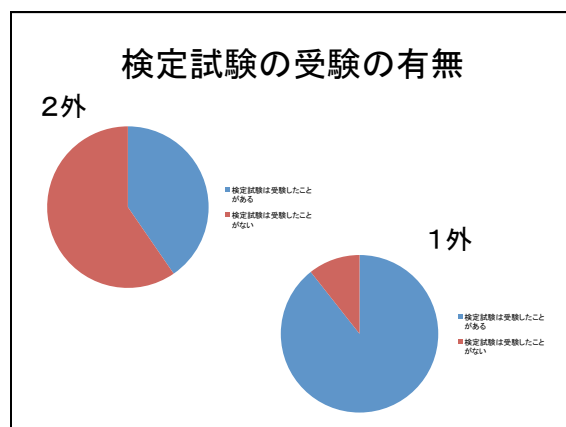
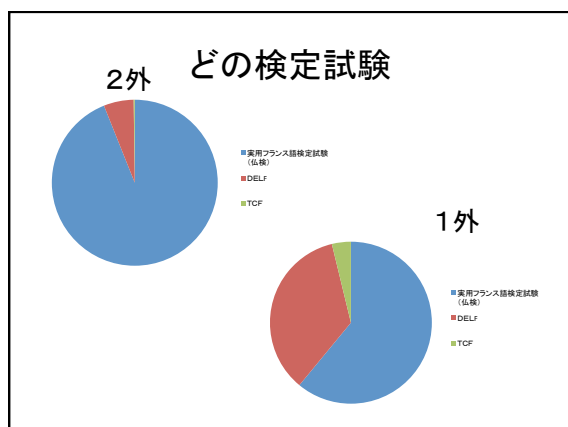
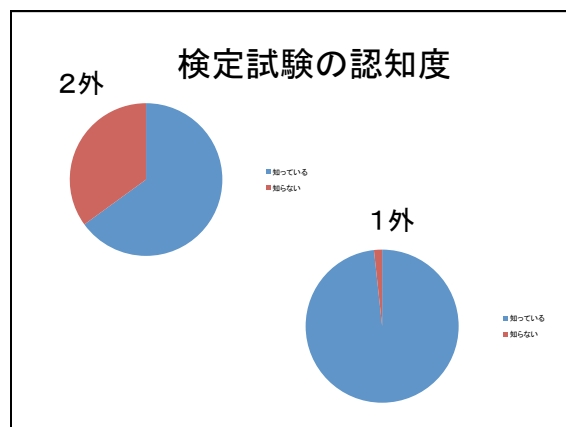
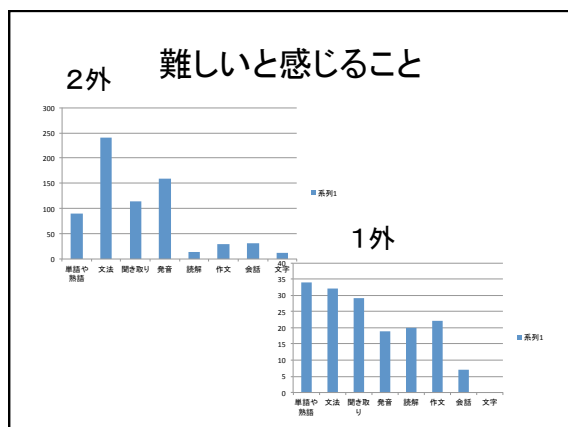
- フランス語が将来役立つと思っている人の多くは、学習以前からフランス語に興味を持っており、さらに大学進学に有利な点からフランス語を選択している。

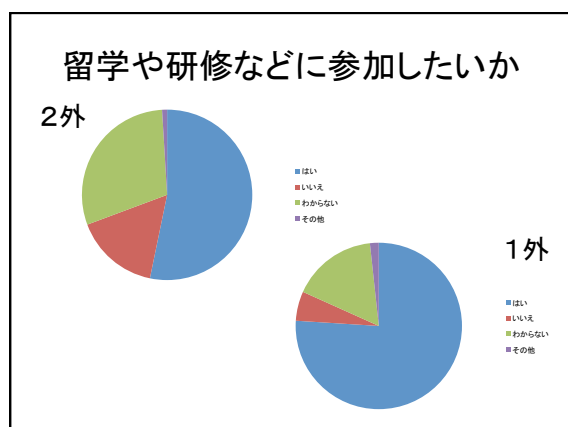
高校生1外と2外の比較

- データ集計で抜けていた部分
 - 1外のデータで主要校が抜けていてデータにならない
 - 学校数は7校のみ(私学5校, 公立2校)
- 学校数(2外と1外だけに限定)
 - 2外 740名
 - 1外 175名









アンケートの公開について

- http://www.sjllf.org/iinnkai/?action=common_download_main&upload_id=161

5 教員免許状更新講習と複言語

初年度(2009)の多言語教育関係講習

- 言語系(文化含む)
 - フランス語 3講座
 - ドイツ語 3講座
 - 中国語 9講座
 - 韓国語 2講座
 - ポルトガル語 3講座
 - スペイン語 3講座
- 多言語(文化含む)
 - 言語中心 19講座
 - 異文化理解中心 12講座

12. 3. 30. Rencontres pédagogiques

64

構成の特色

- 6時間のみの講習中心
- 12時間は1講座(北星学園大学)
- 18時間は2講座(本研究所, 大阪教育大学)

12. 3. 30. Rencontres pédagogiques

65

本年度(2011年度)の多言語教育講習

- 言語系は大幅減少, 多言語, 異文化理解は増加

12. 3. 30. Rencontres pédagogiques

66

現状と問題点

講習初年度は、中止になったとは言え、フランス語、ドイツ語、中国語の専門的な講習が企画されていた

講習3年目の今年は、専門的な講習は、南山大学ただ1校のみ。

中国語、スペイン語についての専門的な講習を企画しただけである。

→ 残念ながら、中国語については中止

12. 3. 30. Rencontres pédagogiques

67

現状と問題点

受講者が集まりにくいと思われる講習は、年々企画されなくなりつつある。

12. 3. 30. Rencontres pédagogiques

68

現状と問題点

英語以外の外国語教育を専門とする教員が、自分の専門とする外国語についての、最新の研究成果などを知る講習がほぼ皆無であることは、現在の外国語教育がいかに英語に偏重しているかの証左とも言える。

12. 3. 30. Rencontres pédagogiques

69

異文化理解についての講習

多く開催された

外国人子女などへの教員の指導力を高めるための講習が充実

地域密着型のもの

琉球大学の「地域に根ざした国際理解教育」など。

12. 3. 30. Rencontres pédagogiques

70

教員免許状と教職

- 教員免許状
 - 修士レベル化
 - 基礎免許(学部), 一般免許(修士レベル), 専門免許(詳細はまだ)
- 教職
 - 教員免許状と複言語
 - 苦勞している中国語
 - フランス語

6 日本外国語教育推進機構

日本外国語教育推進機構(JACTFL)

- 非営利の社団法人を準備中
 - 理事候補
フランス語、ドイツ語、ロシア語、中国語、韓国語、日本語、英語
- 本研究所の複言語教育研究会 が一つの母体
- 3月3日に開かれた「未来(あす)を生き抜くための外国語教育に挑む(国際文化フォーラム、上智大学主催)」がきっかけ
 - 各言語、学会、機関の連携 → 文科省への働きかけ
 - 中等教育での英語以外の外国語教育の必修化
 - 学習指導要領の改訂(10年後)
- 秋までには発足予定、来年の3月3日のシンポジウム企画

- 臼山利信(ロシア語) 筑波大学准教授
- 神谷善弘(ドイツ語) 大阪学院大学准教授
- 境一三(ドイツ語) 慶應大学教授
- 迫田久美子(日本語) 国立国語研究所日本語教育研究・情報センター長
- 當作靖彦(日本語) カリフォルニア大学サンディエゴ校教授
- 中野佳代子(中, 韓国語) (独)国際交流基金参与
- 西田浩子(事務局) (公財)かめのり財団理事兼事務局長
- 藤井達也(中国語) 埼玉県立伊奈総合学園高校
- 水口景子(事務局) (公財)国際文化フォーラム事務局長
- 山崎吉朗(フランス語)(一財)日本私学教育研究所研究員
- 山下誠(韓国語) 神奈川県立鶴見総合高等学校教諭
- 吉田研作(英語) 上智大学教授

- は複言語教育研究会所属

ご静聴ありがとうございました